

令和2年2月12日

教 育 委 員 会

君津市小中学校における水泳指導とプール施設の あり方に関する基本方針を策定しました

君津市の今後の水泳指導のあり方を「教育効果」、「安全衛生」、「施設の維持管理」の面から見直し、より安全で質の高い水泳指導を目指す基本方針を策定しました。

記

平成30年度から2年間実施した、民間プール等における水泳指導の施行を踏まえ、以下の取り組みを推進します。

1 水泳指導の方向性

発達段階を考慮し、小・中学校の9年間を見通した水泳指導を進めていきます。

小学校期

○実技指導の充実による泳力の向上

- ・指導補助者の配置やインストラクターの活用により、専門的で効果的な指導（着衣泳を含む。）を実施します。
- ・中学校で学習する泳法にも触れ、発展的な学習に取り組みます。

中学校期

○理論学習の充実

- ・水泳の事故防止の心得、救命救急法、応急手当など安全に関する理論学習へ移行していきます。
- ・救命救急では、専門的な知識を持った指導者の指導により知識や技能を身につけます。

2 学校プールの集約化

1校1プールにこだわらず、以下のプール施設へ集約化を行います。

○使用するプール

- ・比較的新しい学校プールの共同使用（八重原小 外箕輪小 貞元小 周南小）
- ・久留里市民プール、民間プール施設の活用。

○1校1プールと集約化との経費比較

- ・学校プール施設の大規模改修や改築にかかる経費の削減につながります。
- ・5年間で 約6億3,400万円 の経費削減につながると試算。

3 運用開始 令和2年度から

【本件に関する問い合わせ先】

君津市教育委員会体育振興課 担当：高野・渡辺

電話：0439-56-1433 FAX：0439-56-1627

メール：sports@city.kimitsu.lg.jp

君津市小中学校における水泳指導とプール施設のあり方に関する基本方針＜概要版＞

1 策定の目的

君津市の水泳指導およびプール施設のあり方を、「教育効果の維持向上」、「児童生徒の安全面・衛生面の確保」、「施設の維持・管理」の視点から、より質の高い水泳指導を目指し基本方針を策定した。

2 水泳指導の現状と課題

（１）水泳指導の授業時数について

○小学校では、１０時間以上。

○中学校では、プール施設が使用できる学校は実技・理論学習合わせて９時間程度、プール施設が使用できない学校は理論学習を３時間程度。

（２）指導面について

○小学校では、複数学年で授業を行ったり、能力別指導を行ったりしているが、教員数に限りがあることや高い指導スキルをもった教員が少ないことから泳力の差が出ている。

○中学校では、生徒の泳力差が更に広がり、能力に応じた指導が難しくなっている。また、理論学習における救命救急法の実習のための教具の確保や最新の専門的な知識が必要となっている。

（３）施設面について

○老朽化が進行し、使用できないプール施設が増えている。

○修繕箇所が増え、大規模改修・改築が同時期に集中することも想定できる。

3 今後の水泳指導に向けて

久留里市民プール・民間プールを有効に活用するとともに、比較的新しい学校プール施設（拠点校）への集約を行い、安全で質の高い水泳指導を進めていく。

（１）小学校期の水泳指導充実のために、久留里市民プール・民間プール、拠点校へ集約して実施する。

効果的な指導のため、指導補助員やインストラクターを活用する。

（２）中学校では、水泳に関する理論学習へ段階的に移行していく。

4 学校プールの集約化について

○学習時間確保のため、比較的短時間で移動できる施設へ集約。

○比較的新しく状態の良い学校プールは、拠点校として利用を継続していく。

※プール施設の集約については当面、以下表のとおり集約を進める。

<令和2年度以降の施設集約イメージ>

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
八重原小	八重原小（拠点校）		
北子安小	八重原小		
外箕輪小	外箕輪小（拠点校）		
貞元小	貞元小（拠点校）		
周西小	外箕輪小・貞元小	民 間 施 設 等	
南子安小	南子安小	民 間 施 設 等	
大和田小	民 間 施 設 等		
坂田小	民 間 施 設 等		
周南小	周南小（拠点校）		
中小	周南小	（統合：小糸小） 周南小	
小糸小	久留里市民プール		
清和小	久留里市民プール		
小櫃小	小櫃小	久留里市民プール	
久留里小	久留里市民プール	（統合：上総小） 久留里市民プール	
松丘小	久留里市民プール		
坂畑小	久留里市民プール		
君津中	理論学習		
八重原中	八重原中（今後理論学習へ移行）		
周西中	理論学習		
周西南中	周西南中（今後理論学習へ移行）		
周南中	理論学習		
周東中	理論学習		
上総小櫃中	上総小櫃中（今後理論学習へ移行）		

※学校再編の進捗状況や久留里市民プール・民間プール施設の状況等により変更する。

1校1プールの水泳指導とプール施設を集約した場合を、5年間を検証期間としてライフサイクルコストを比較すると、

＜1校1プール＞	＜プール施設を集約＞
1年間にかかる維持管理費 1,060万円 (水道費+ろ過装置保守点検費+水質検査費+消毒費+修繕)	1年間にかかる経費の平均 1,620万円 (施設使用料+指導補助員・インストラクターの人情費+児童輸送費)
さらに 大規模改修： 1,470万円 改築：1億6,000万円 ※大規模改修2校、改築4校	拠点校4校の維持管理費 大規模改修1校
5年間で7億3,000万円	5年間で9,600万円

集約は、施設使用料や輸送費がかかるが、**5年間で約6億3,400万円の経費削減。**

5 まとめ

発達段階を考慮し、小学校期の泳力の向上と中学校期の理論学習により、9年間を見通した水泳指導につなげていく。

○小学校 → 泳力の向上を図り、プール施設の集約化および指導補助員の配置やインストラクターの活用を進める。

○中学校 → 小学校での泳力向上をベースに、安全に関する知識と技能を身につける理論学習に移行していく。

君津市

**小中学校における水泳指導と
プール施設のあり方に関する基本方針**



令和2年1月

君津市教育委員会

はじめに

君津市教育委員会では、第三次きみつ教育創・奏5か年プランを策定し、基本目標の一つに「健康で生き生きとした生活づくり」を掲げています。「学校体育活動の充実」を一つの方向性として「児童・生徒の丈夫で強い心と体の育成」、「安全・安心で充実した体育活動の推進」を具体的な取り組みとしています。

市内の児童生徒における、体力・運動能力は、全国平均を上回り、県内でも上位となっていますが、数値は全体的に低下傾向にあり、運動能力の二極化も進んでいます。

君津市小中学校体育連盟による小学校泳力検定の合格率の推移から、泳力も低下傾向にあることがわかります。

また、近年、学校プール施設そのものの老朽化による不具合箇所が増加してきました。このような状況の中で、水泳指導の充実へ取り組んでいかなくてはなりません。

1 策定の目的

水泳は全身運動で、バランスの良い発育発達を促すとともに、心肺機能の向上にもつながる運動であり、その学習は命に関わる学習でもあることから、その充実はいうまでもありません。

本方針は、君津市の水泳指導およびプール施設のあり方を、「教育効果の維持向上」、「児童生徒の安全面・衛生面の確保」、「施設の維持・管理」の視点から、今後のより安全で質の高い水泳指導を目指して「水泳指導とプール施設のあり方に関する基本方針」を策定しました。

2 水泳指導の現状と課題

君津市内の学校における水泳指導は、これまで一律に学校内のプール施設を使用した当該校の教員による水泳指導が行われてきました。

(1) 水泳指導の授業時数について

水泳指導は、市内小・中学校全ての学年で実施しています。小学校では、どの学校も10時間以上学習時間を確保し、実技・理論学習・着衣泳を行っています。

中学校では、10校中4校が実技・理論学習を行い、その他6校はプール施設の設置がない学校や老朽化により使用できない学校であり、理論学習を行っています。実技を行っている学校は9時間程度、理論学習を行っている学校は3時間程度の学習時間を確保しています。

(2) 指導面について

一般的に小学校では「浮く・もぐる」から「基本的な泳法」の系統化を図り、発達段階に応じ指導しています。中学校では、泳法を中心に水泳指導が行われています。

市内小学校では、水泳学習中の事故は命に関わることから、安全を第一に考え複数学年で授業を行うなど、より多くの職員で実施しています。効果的な指導に向け、能力別指導を実施していますが、**高い指導スキルをもった教員が少ないことや、限られた教員数での指導となることから、十分な能力別指導が実施できず、泳力の差が出てきています。**

市内中学校では、保健体育科の教員が実技もしくは理論学習を実施しています。実技では、**生徒の泳力差がさらに広がり、能力に応じた指導が難しくなっている状況にあります。**現在プールが使用できない学校における理論学習では、水泳の事故防止に関する心得と合わせて、心肺蘇生法やAEDの使用方法を学習しています。知識を習得するだけでなく、実践力を身につけることを目指して学習を行っていますが、**学習教具の数を確保し全員が疑似体験できるような環境を作ることや、最新の救命救急法やAEDの使用方を指導するための専門的な知識が必要**となってきています。

(3) 施設面について

市内に設置されている学校プール施設は、建設から相当の年月が経過し**老朽化が進行し、使用できないプール施設があります。**

使用できるプール施設の平均築年数は34.6年に達し、中には、築50年を迎える施設もあります。**修繕箇所が増えていることや、大規模改修・改築が必要となる施設が17施設中10施設を数えることから、今後、大規模改修・改築が同時期に集中すること**も想定できます。

[学校プール施設使用可能校の建築後年数]

八重原小	周南小				
13年	19年				
外箕輪小	貞元小	小櫃中	久留里中	八重原中	
22年	27年	24年	29年	29年	
北子安小	南子安小	周西小	周西南中		
33年	39年	39年	31年		
坂田小	秋元小	三島小	小櫃小	大和田小	小糸小
45年	46年	46年	48年	49年	49年

プールが使用できる学校： 17校

プールが使用できない学校：10校（プール設置のない学校：3校）

3 今後の水泳指導に向けて

水泳指導の現状と課題を受け、今後の水泳指導について1校1プールにこだわらず、既存の久留里市民プール・民間プール施設（施設・設備や指導補助員・インストラクター）を有効に活用するとともに、比較的新しい学校プール施設への集約を行います。

※指導補助員 → 教員免許（小学校又は中学校保健体育科）、若しくは、スポーツインストラクターの資格を所有している者

（1）試行の検証

平成30年度から2年間、久留里市民プール・民間プール施設を活用した授業の試行を以下のとおり実施しました。

- 目 的：・指導補助員、インストラクター活用による専門的な指導の効果を検証する。
- ・久留里市民プール、民間プール施設を有効に活用した水泳指導の効果を検証する。

実 施 校：中小、秋元小、三島小、久留里小、松丘小、坂畑小

利用施設：久留里市民プール、君津メディカルスポーツセンター

- 内 容：・久留里市民プールでは指導補助員を配置し、教員とチームティーチングによる指導（年間5時間）
- ・君津メディカルスポーツセンターでは、インストラクター活用による指導（年間5時間）

実施校からは、久留里市民プール・民間プール施設を利用した水泳指導を通して、指導補助員、インストラクターによる専門的な指導は、児童にとって少ない授業時間でも泳力の向上につながり、整った施設、設備による安全な学習環境の確保につながっているといった声が多く集まりました。反面、移動に時間がかかり学習時間の確保や日程調整に苦慮したというデメリットがあげられました。

（※P8 資料 試行実施校のアンケート結果）

また、教員にとっては、指導補助員・インストラクターとのチームティーチングにより、水泳指導のポイントを学ぶ機会となり、指導力の向上につながっています。

試行の結果から、久留里市民プール、民間プール施設や比較的新しい学校プール施設を拠点（以下「拠点校」）としても活用していきます。拠点校での学習については、施設の維持・管理面において差異はあるものの、久留里市民プールを活用した取り組みと同様の計画で実施できると判断しました。

以上のことから、本方針の素案を作成し、全小中学校へ意向調査を実施しました。実施校以外からは、試行におけるメリットについて賛成意見が多くあげられる一方、移動時間を考慮し、実施回数を減らす中で、泳力の向上を求める意見があげられました。また、拠点校の受け入れに関する負担についての意見があげられました。

（※P8 資料 各学校より意見聴取の結果）

（２）水泳指導充実に向けて

小学校期は、多様な運動経験により、器用さ、リズム感、バランス感覚などの習得やスポーツにおいての複雑、高度な技術を習得しやすい時期にあります。

- ① 小学校期の水泳指導充実のために、久留里市民プールや民間プール、拠点校で実施し、安全で衛生的な学習環境を整えます。

また、効果的な指導のため、指導補助員の配置やインストラクターを活用し指導体制を確立していきます。技能習得に時間を要する児童への積極的な指導を通して技能の定着を図るとともに、スキルの高い児童が泳力をさらに高められるよう、中学校で学習する泳法にも触れ、発展的な学習に取り組みます。小学校での実技指導の充実により、泳力向上を図り、併せて、教員の指導力の向上につなげていきます。

- ② 中学校では、水難事故を防ぎ、事故への対応方法といった水泳に関する理論学習に移行していきます。なお、理論学習への移行は、小学校の技能の習得状況や当該校と教育委員会の協議により、段階的に進めていきます。

＜中学校における理論学習の内容とは＞

- ・水泳の事故防止に関する心得
- ・救命救急法
- ・応急手当

※理論学習での、救命救急法については、消防署員等の指導を受けることで、より専門的な知識と技能を身につけていきます。

4 学校プール集約化について

プール施設の集約については当面、「令和2年度以降の施設集約イメージ」の形へ集約を進めます。今後の学校再編の進行状況や利用する施設の状態等により変更していきます。

（１）集約化の基本的な考え方

- 試行の結果から、学習時間の確保のため、比較的短時間で移動できる施設へ集約していきます。
 - 比較的新しく状態の良い学校プール施設は、拠点校として利用を継続できるように、改修・修繕を行っていきます。
 - 久留里市民プール・民間プール・拠点校の状態を確認しながら、近隣市のプール施設と協議を進め、受け入れ可能な施設を検討していきます。
 - 移動手段は、生涯学習バス・スクールバス・借り上げバスを確保します。
 - 自校以外で活動する場合の見学者は、活動場所で見学しますが、移動が困難な場合は、自校で学習します。
 - 各学年移動を含め2時間×5日間で指導計画を立てます。
- ※拠点校の負担軽減に向けての具体的運用については、拠点校、利用校及び教育委員会で協議し別に定めます。

(2) 令和2年度以降の施設集約イメージ

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
八重原小	八重原小（拠点校）		
北子安小	八重原小		
外箕輪小	外箕輪小（拠点校）		
貞元小	貞元小（拠点校）		
周西小	外箕輪小・貞元小	民 間 施 設 等	
南子安小	南子安小	民 間 施 設 等	
大和田小	民 間 施 設 等		
坂田小	民 間 施 設 等		
周南小	周南小（拠点校）		
中小	周南小	（統合：小糸小） 周南小	
小糸小	久留里市民プール		
清和小	久留里市民プール		
小櫃小	小櫃小	久留里市民プール	
久留里小	久留里市民プール	（統合：上総小） 久留里市民プール	
松丘小	久留里市民プール		
坂畑小	久留里市民プール		
君津中	理論学習		
八重原中	八重原中（今後理論学習へ移行）		
周西中	理論学習		
周西南中	周西南中（今後理論学習へ移行）		
周南中	理論学習		
周東中	理論学習		
上総小櫃中	上総小櫃中（今後理論学習へ移行）		

※学校再編の進捗状況や久留里市民プール・民間プール施設の状態等により変更する場合があります。

(3) コストについて

プール集約化を行うと、施設使用料や児童の輸送費などの経費がかかりますが、現在の1校1プールにかかる費用と集約した場合の費用を、令和2年から5年間を検証期間として、ライフサイクルコストを比較すると、以下のように試算できます。

<1校1プールを続けると>

1年間にかかる維持管理費 1,060万円

(水道費＋ろ過装置保守点検費＋水質検査費＋消毒剤費＋修繕費)

更に 大規模改修 1,470万円 2校

改 築 1億6,000万円 4校

5年間で7億3,000万円

<久留里市民プール・民間プール施設を活用すると>

1年間にかかる経費の平均 1,620万円

(施設使用料＋指導補助員・インストラクターの人件費＋児童輸送費)

拠点校4校の維持管理費と大規模改修1校を含め

5年間で 9,600万円

◎5年間で 6億3,400万円の経費削減

につながる試算になります。

(※P11 資料「学校プール施設維持管理費比較表」参照)

5 まとめ

発達段階を考慮し、小学校期の泳力の向上と中学校期の理論学習により、9年間を見通したより質の高い水泳学習を実施していきます。

○小学校 → 泳力の向上のために、プール施設の集約化および指導補助員の配置やインストラクターの活用を進める。

○中学校 → 小学校での泳力の向上をベースに、安全に関する知識と技能を身につける理論学習に移行する。

資料

試行実施校へのアンケート結果

メリット	デメリット
・ 専門指導者による効果的指導 ・ 能力別指導が可能 ・ 教職員による監視も確保、高い安全管理 ・ 水質が一定、高い衛生管理 ・ 学校職員によるプール維持管理、安全管理不要 ・ メディカルスポーツセンターでは、屋内プールであることから、水温が一定で天候に左右されず計画どおりの指導が可能	・ 移動に時間がかかる ・ バス移動による経費がかかる ・ 利用施設と学校間の行事調整

各学校より意見聴取の結果

指導について	生命安全確保にもつながることから、実技指導に重点をおくことに賛成。そのための専門的な知識を持った人材による指導は「能力別指導」、「安全確保」、「泳力向上」、「指導力向上」につながると考える。 (意見) 市民プールなどへの移動時間があるので、極力少ない実施回数で時数をこなしていきたい。
施設面について	屋内プールでの指導を考えていくべきではないかと考える。気象条件等の影響を受けず計画どおりに学習を進められる。 (意見) ・ 他校のプールを使用する場合 ① プール管理の負担が偏る ② 水泳学習の時間の割り当て、当日の天候等による実施の有無の確認、補助指導員との連絡がスムーズにとれるか心配である。 ③ 数校でプールを使用する場合、割り当てが埋まり、柔軟に学習予定を変えづらくなり、天候次第では時数の確保が難しくなる。
参考意見	・ 中学校は数年のうちに多くの学校が使用不可になると思われるため、「水泳の事故防止に関する心得」、「児童生徒にできる救助法」、「心肺蘇生法」の最低限押さえてほしい内容の資料をつけてもらえると、体育教師が指導しやすくなるとともに、意図する指導に近づく

	と思いますので、ご検討いただけるとありがたい。 ・移動の時間は、授業時数としてカウントできないので、高学年の時数が心配である。 ＜例＞ 午前中３時間授業 1 校時 授業 ＜移動＞ 2、3校時 水泳 ＜移動＞ 給食 ・民間プールや他校の場合の見学者や不参加者の取り扱いをどうするかなど、考えなければいけないと感じる。 ・天気に左右され日程変更ができないことも多いと思うので、計画通りに実施できないことを考慮に入れておけば、小規模校では可能だと考える。
--	--

水泳指導について

＜文部科学省 小学校学習指導要領解説 体育編より＞

【ねらい】

- ・一人一人の児童が自己の能力に応じた課題をもち、練習を工夫し、互いに協力して学習を進めながら、水泳の楽しさを味わうことができるようにすること。
- ・呼吸の仕方を身につけること。
- ・手と足の動きに呼吸を合わせながら続けて長く泳ぐこと。
- ・水泳は生命にかかわることから、安全の心得について指導すること。

【水泳系の内容】

学年	内容	技能例示
低学年	水遊び	ア 水に慣れる遊び（水につかったのまねっこあそび）
		イ 浮く・もぐる遊び（補助具を使つての浮く遊び、バブリング）
中学年	浮く・泳ぐ運動	ア 浮く運動（伏し浮き、背浮き、け伸び等）
		イ 泳ぐ運動（バタ足、連続ボビング、面かぶりクロール等）
高学年	水泳	ア クロール（25～30m程度を目安にしたクロール等）
		イ 平泳ぎ（25～30m程度を目安にした平泳ぎ等）

＜文部科学省 中学校学習指導要領解説 保健体育編より＞

【ねらい】

- ・記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、泳法を身につけること。
- ・健康や水中での安全に気を配ることができるようになること。
- ・記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、効率的に泳ぐことができること。
- ・健康や安全を確保するとともに、健康観察の方法など理解をすること。

【水泳系の内容】

学年	内容	技能例示
1・2 学年	水泳	ア クロール（一定のリズムで強いキックを打つ、プルとキックのタイミング等）
		イ 平泳ぎ（カエル足のキック、プルのかき終わりと呼呼吸等）
		ウ 背泳ぎ（背中を伸ばし水平に浮く、直接的なリカバリー等）
		エ バタフライ（ドルフィンキック、呼吸とプルのタイミング等）
		ア スタート（水中からのスタート等）
		イ ターン（壁にタッチし進行方向を転換する等）
3学年	水泳	ア クロール（手をリラックスして動かすこと等）
		イ 平泳ぎ（強くかくこと、一回で大きく進むこと）
		ウ 背泳ぎ（肘を伸ばしたリカバリー、スムーズなローリング等）
		エ バタフライ（ロングアームプル、キック・プル・呼吸のタイミング等）
		オ 複数の泳法・リレー
		ア スタート（壁を強く蹴る、局面をつなげる等）
		イ ターン（スピードを落とさないターン動作、局面をつなげる等）

水泳指導の時間を学習指導要領では、「一部の運動領域に偏ることのないような授業時間の配当にするとともに、ある程度幅をもって考えること」、「地域や学校の実態を踏まえながら、児童生徒の能力・適正、興味・関心等に応じて計画を立てること」と明記されています。

また、水泳の指導については、適切な水泳場の確保が困難な場合にはこれを扱わないことができるが、水泳の事故防止に関する心得については、必ず取り上げること。また、保健分野の応急手当との関連を図ること

＜君津市の水泳指導の基本＞

学年	内容	技能例示
低学年	水遊び	水に慣れる遊び（水につかったのまねっこあそび）
		浮く・もぐる遊び（補助具を使っの浮く遊び、バブリング）
中学年	浮く・泳ぐ運動	浮く運動（伏し浮き、背浮き、け伸び等）
		泳ぐ運動（バタ足、連続ポビング、面かぶりクロール等）
	発 展	・25～30m程度を目安にしたクロール等 ・25～30m程度を目安にした平泳ぎ等
高学年	水 泳	クロール ・25～30m程度を目安にしたクロール等

		発展	・一定のリズムで強いキックを打つ、プルとキックのタイミング等 ・手をリラックスして動かすこと等
		平泳ぎ ・25～30m程度を目安にした平泳ぎ等	
		発展	・カエル足のキック、プルのかき終わりと呼吸等 ・強くかくこと、一回で大きく進むこと
	発 展	背泳ぎ ・背中を伸ばし水平に浮く、直接的なリカバリー等 ・肘を伸ばしたリカバリー、スムーズなローリング等 バタフライ ・ドルフィンキック、呼吸とプルのタイミング等 ・ロングアームプル、キック・プル・呼吸のタイミング等	
中 1	水泳の事故防止に関する心得 ・水泳時の危険行動 ・救助方法 ・緊急時の対応		
中 2	救命救急法 ・AEDの使い方 ・心肺蘇生法		
中 3	応急手当 ・止血法 ・包帯法 ・R I C E 処置		

※小学校学習指導要領に示されている、クロール・平泳ぎの2泳法を中心に、技能の習得に努める。発展的な学習内容として、背泳ぎ、バタフライを取り扱うことができるが、水難事故から命を守る視点から、仰向けで浮かぶ背泳ぎを優先して学習する。

学校プール施設維持管理費比較表

	5年後	10年後	15年後	20年後	25年後	30年後
学校プール 現状維持	7億3千万	8億1千万	12億	17億4千万	21億	24億9千万
	改修：2校 改築：4校	改修：4校 改築：4校	改修：5校 改築：6校	改修：6校 改築：9校	改修：6校 改築：11校	改修：7校 改築：13校
市民・民間 を活用	9,600万	2億	3億	4億	6億4千万	8億9千万
	改修：1校 改築：0校	改修：2校 改築：0校	改修：3校 改築：0校	改修：4校 改築：0校	改修：4校 改築：1校	改修：4校 改築：2校
差 額	6億3千万	6億1千万	9億	13億4千万	14億6千万	16億

※市営プール・民間プール施設を活用した場合、学校プール施設の改修、改築にかかる経費が削減できるため、維持管理費を抑えることができる。

移動時間 ※単位：分

久留里市民プール	小糸小（１９）、清和小（２４）、小櫃小（６）、 久留里小（４）、松丘小（１２）、坂畑小（１９） (上総小（４）)
君津メディカル	大和田小（６）、坂田小（６） 南子安小（１５）、周西小（１０）
周南小	中小（７）、(小糸小（７）)
外箕輪小	周西小（１０）
貞元小	周西小（６）
八重原小	北子安小（６）
千葉県立富津公園温水 プール	大和田小（１８）、坂田小（１８） 南子安小（２７）、周西小（２０）

※ゴシック体の網かけは統合後の学校